農大有機 NEWS
第１号

発行；平成26年7月　島根県立農林大学校
〒 699-2211 大田市波根町 970-1　　電話；0854-85-7012
HP：http://www.pref.shimane.lg.jp/nourindaigakko/
浜崎（有機農業専攻）　佐藤（研修担当）

■発行に寄せて

平素は農林大学校の運営にご理解ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

さて、平成24年度春に創設された有機農業専攻は３年目を迎え、今年春には初めての卒業生を送り出しました。当専攻については、各方面から注目を頂いていますので、この「農大有機ＮＥＷＳ」にまとめて、取り組み紹介をさせて頂くこととなりました。

本紙では農大で実施している講義、実習の様子、トピック的な話題、お世話になっているサテライト校等の状況等についてお知らせしたいと考えています。

末永くよろしくお願いします。

島根県立農林大学校農業科有機農業専攻　浜崎修司

■今年度の専攻概要

学生数　1 年生 7 人、2 年生 7 人　合計　14 人
研修生　10 人（出雲 6、川本 1、邑南 1、美郷 1、江津 1）

■今年の卒論（2 年生）はこのテーマに取り組んでいます

野菜	・夏秋ピーマンにおける基肥比較 ・夏秋カボチャのうどんこ対策 ・有機栽培向きキュウリ品種の育成 ・夏秋ナスのアブラムシ対策
水稲	・水稲の深水管理の抑草効果 ・石見高原ハーブ米の有機栽培技術確立 ・水稲有機栽培における食味向上対策

コンパニオンプランツを植えたキュウリハウス

学生実習の一コマ

有機水稲栽培で一番頭を悩ませるのが雑草対策です。数々の除草技術はあるものの、土質や気候によって効果を発揮するもの、しないものがあります。

農大水田では、昨年の実績とデータを元に、今年も色々な除草方法を試しています。今年は雑草の生育が早く、昨年どおりにはいかないこともありますが、農大水田に適した除草方法を見つけて行きたいと思っています。

オリジナル除草具による除草

田車による除草

［研修部門］「有機農業研修」がリニューアルしました

今年度、従来の有機農業に関する研修を「有機農業実践研修」として充実強化して、5 月 14 日から 10 名を対象に実施しています。

研修期間は 5 月から 12 月までの約 30 回毎週開催とし、土作り・堆肥作成等の有機の基本技術はもとより、野菜（春夏作、秋冬作）、水稲栽培実習に取り組みます。

また、学生とともに先進事例講義や地域農業実習（視察）等にも参加できるようにしています。現場に即したより実践的な研修の実施により、就農や経営安定につながるよう努めてまいります。

［トピックス］ヨシの農業利用

宍道湖湖岸に植栽されたヨシの活用を図るため、堆肥化処理や通路等への敷きワラ用途（有機物マルチ）への適応性をみています。

ヨシ組織は比較的硬く、腐熟も遅いので通路へ敷設した場合、長期間持ちます。このような敷設有機物は草抑えになるほか、クモ等の棲息場所としても適し、ハウス内の生物環境の健全化に役立ちます。

［連携農業者情報］佐々木農場（いわみ地方有機野菜の会）

農大有機農業専攻では有機栽培農家 6 戸と協力協定を結び、「サテライト校」として設置し、講師として招いたり学生の実習先としてお世話になっています。

先般 5 月 13 日には、「いわみ地方有機野菜の会」のメンバーである浜田市の佐々木農場を地域農業実習で訪問しました。

佐々木農場は現在、ハウス面積 3.9ha、95 棟でホウレンソウ、コマツナなどの軟弱野菜を作付けされています。

有機農産物は「安全」プラス「中身」が必要で硝酸態窒素濃度の低い野菜作りを実践すること、また、原価計算を基に契約取引を行い経営の成り立つ農業を目指すこと、さらに、安全な農産物を日本の消費者に買ってもらわなければならないことなどについて、経験に基づくお話しをいただきました。

［当面の予定］学生は有機農業実践現場で体験実習をします。
実習先の皆様にはどうかよろしくお願いいたします。
〈1 年 7 名〉7-8 月 1 週間　〈2 年 7 名〉7-9 月 1 カ月（先進農林業者等体験学習）